

2 豆類の防除基準

だいず病害虫防除農薬一覧

農 薬 名	R A C コ ド	有 効 成 分 名	本剤の 使 用 回 数	該 分 子 を 含 有 農 薬 使 回 数	適 用 病 害 虫 名															
					紫 斑 病	白 絹 病	さ び 病	茎 疫 病	ダイ ズ サ ヤ タ マ バ エ	マ メ ヒ メ サ ヤ ム シ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	シ ロ イ チ モ ジ マ ダ ラ メイ ガ	マ メ シ ン ク イ ガ	カ メ ム シ 類	コ ガ ネ ム シ 類	フ タ ス ジ ヒ メ ハ ム シ	ア ブ ラ ム シ 類	ハ ダ ニ 類	ネ コ ブ セ ン チュ ウ	ネ グ サ レ セ ン チュ ウ
ベンレート水和剤	1	ベノミル	4	5※1	○															
トップジンM水和剤	1	チオファネートメ チル	1(は種前) 4	4※2	○															
ゲッター水和剤	1	チオファネートメチル	3	4※2	○															
	10	ジエトフェンカルブ	1(は種前)	4※3																
ホームイ水和剤	1	チオファネートメチル	1(は種前)	4※2	○															
	M3	チウラム	1																	
ベンレートT水和剤20	1	ベノミル	1(は種前)	5※1	○															
	M3	チウラム		1																
アフエットフロアブル	7	ペンチオピラド	3	3			○													
ニマイバー水和剤	1	ベノミル	4	5※1	○															
	10	ジエトフェンカルブ		4※3																
アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン	2	2	○															
クルーザーMAXX	4A	チアメトキサム	1(は種前)	3※4	○	○		○										○	○	
	12	フルジオキシニル		1																
	4	メタラキシルM		4※5																
リゾレックス水和剤	14	トルクロホスメチル	3	3		○														
園芸ボルドー	M2	硫黄	—	—				○ ※a												
	M1	塩基性塩化銅	—																	
ジマンダイセン水和剤	M3	マンゼブ	3	3	○															
キヒゲンR-2フロアブル	M3	チウラム	1(は種前)	1	○															
ランマンフロアブル	21	シアゾファミド	1(は種前) 3	4※6				○												
レーバスフロアブル	H5	マンジプロバミド	3	3				○												
スミチオン乳剤	1B	MEP	4	4					○	○		○	○	○			○			
ダイアジノン粒剤5	1B	ダイアジノン	4※7	6※8					○			○	○	○	○ ※b	○				
マラソン乳剤	1B	マラソン	3	3									○		○		○	○		
エルサン乳剤	1B	PAP	2	2							○	○	○	○			○			
アディオオン乳剤	3A	ペルメトリン	3	3									○	○			○	○		
トレボン乳剤	3A	エトフェンブロックス	2	2					○		○	○	○	○			○	○		
スタークル顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	2	3※9					○					○			○			
アルバリン顆粒水溶剤		クロチアニジン	3	4※10									○	○		○	○			
ダントツ水溶剤	4A	クロチアニジン	3	4※10										○	○		○	○		
コロマイト乳剤	6	ミルベメクチン	2	2														○		
D-D	8A	D-D	1	1															○	○
カスケード乳剤	15	フルフェノクスロン	2	2					○		○		○	○			○	○		
ロムダンフロアブル	18	テブフェノジド	3	3							○									
トルネードエースDF	22A	インドキサカルブ	2	2							○									
プレバソソフロアブル5	28	クロラントラニプロール	2	2							○		○							
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	2	2							○		○							
グレーシア乳剤	30	フルキサメタミド	2	2							○		○				○	○		

※1 種子粉衣は1回以内、は種後は4回以内 ※2 種子への処理は1回以内

※3 種子粉衣は1回以内 ※4 は種前の塗沫処理は1回以内、は種後は2回以内

※5 種子粉衣及びは種前の塗沫処理は合計1回以内、は種後は3回以内

※6 種子への処理は1回以内、散布は3回以内 ※7 コガネムシ類幼虫は5回以内

※8 種子粉衣は1回以内、粒剤は5回以内（生育期の処理は4回以内）

※9 は種時の土壌混和は1回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計2回以内

※10 は種時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内 ※a 豆類（種実）登録 ※b コガネムシ類幼虫適用

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期- 本剤の使用回数	注意事項
紫斑病	○は種期 1 無病の種子を選ぶ。 2 種子消毒 (1) 種子粉衣 ホーマイ水和剤 種子重量0.5% ベンレートT水和剤20 乾燥種子重量0.2% ゲッター水和剤 乾燥種子重量0.5% (2) 塗沫処理 キヒゲンR-2フロアブル 原液20ml/ 乾燥種子1kg クルーザーMAXX 原液 8ml/ 乾燥種子1kg ○落花期～幼莢期 トップジンM水和剤 1,500倍 ベンレート水和剤 2,000倍 アミスター20フロアブル 3,000倍 ゲッター水和剤 1,000倍 ジマンダイセン水和剤 600倍 ニマイバー水和剤 2,000倍	は種前-1 は種前-1 は種前-1 は種前-1 は種前-1 14-4 前-4 7-2 14-3 45-3 14-4	1 クルーザーMAXX殺虫殺菌剤は、アブラムシ類、フタスジヒメハムシ、タネバエ、ネキリムシ類、茎疫病、黒根腐病、白絹病等にも登録がある。 2 トップジンMを使用した場合はベンレートを 사용하지 ない。ベンレートを 使用した場合は トップジンMを使 用しない。 3 同一系統の薬剤の 連用は避ける。
白絹病	○は種期 クルーザーMAXX 原液 8ml/ 乾燥種子1kg ○生育期 リゾレックス水和剤 1,000倍 3ℓ/m² 土壌灌注	は種前-1 14-3	発病ほ場ではダイズの 作付は行わず、水稻 との輪作を行うように 努める。
さび病	○9月以降 アフェットフロアブル 2,000倍 園芸ボルドー 800倍	前-3 ---	1 胞子形成は葉裏に多 いことから、薬剤は 下葉の葉裏に十分か かるように散布する。 2 園芸ボルドーは豆類 (種実) 登録。
ダイズ サヤタマバエ	○開花期 ダイアジノン粒剤5 4kg/10a スミチオン乳剤 1,000倍 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 アルバリン顆粒水溶剤	30-4 21-4 7-2	莢にかかるようてい ねいに散布する。害虫 による被害は減収につ ながるので防除を徹底 する。
マメヒメ サヤムシガ	○幼莢期～子実肥大期 スミチオン乳剤 1,000倍	21-4	
シロイチモジ マダラメイガ	○幼莢期～子実肥大期 ダイアジノン粒剤5 4kg/10a スミチオン乳剤 1,000倍 エルサン乳剤 2,000倍	30-4 21-4 7-2	
マメシנקイガ	○幼莢期～子実肥大期 ダイアジノン粒剤5 4kg/10a スミチオン乳剤 1,500倍 エルサン乳剤 1,000倍 アディオン乳剤 3,000倍 トレボン乳剤 1,000倍 ダントツ水溶剤 2,000倍 プレバソンフロアブル5 4,000倍	30-4 21-4 7-2 7-3 14-2 7-3 7-2	

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期- 本剤の使用回数	注意事項
ハスモンヨトウ	○若齢幼虫期 トレボン乳剤 1,000倍 ロムダンフロアブル 2,000倍 トルネードエースDF 2,000倍 プレバソンフロアブル5 4,000倍 プレオフロアブル 2,000倍 グレースシア乳剤 3,000倍	14-2 14-3 7-2 7-2 7-2 14-2	早期発見に努め、若齢期に重点防除をする。
カメムシ類 〔・ホソカメムシ ・イモンジカメムシ ・アオサカメムシ〕	○子実肥大期～莢黄変期 スミチオン乳剤 1,000倍 エルサン乳剤 1,000倍 トレボン乳剤 1,000倍 ダントツ水溶剤 4,000倍 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍	21-4 7-2 14-2 7-3 7-2	1 ほ場周辺の雑草はきれいに刈り取る。 2 マルカメムシの発生は早いので、発生が見られたらなるべく早く防除する。
コガネムシ類 〔・コメコガネ ・マメコガネ〕	○は種前 ダイアジノン粒剤5 4kg/10a 全面または作条土壌混和 ○生育期 (1)成虫 マラソン乳剤 3,000倍 (2)幼虫 ダイアジノン粒剤5 4kg/10a 作条処理して軽く覆土	30-5 7-3 30-5	ダイアジノン粒剤5は幼虫適用。
フタスジ ヒメハムシ	○は種時 ダイアジノン粒剤5 6kg/10a ○発生初期 ダントツ水溶剤 4,000倍	30-4 7-3	1 根を食害するので生育不良になる。 2 成虫は葉を食害する。
アブラムシ類 〔・ダイアブラムシ ・モモアブラムシ ・ワタアブラムシ〕	○発生初期 マラソン乳剤 3,000倍 エルサン乳剤 2,000倍 スミチオン乳剤 2,000倍 ダントツ水溶剤 4,000倍	7-3 7-2 21-4 7-3	
ハダニ類	○発生初期 コロマイト乳剤 1,500倍 カスケード乳剤 4,000倍	7-2 7-2	
ダイズシスト センチュウ	○は種前 3年以上の連作を避ける。 D-D 20ℓ/10a (2ml/1穴) 土壌消毒（土壌消毒の頁参照）	作付10～15日 前まで-1	1 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cm所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。
ネコブセンチュウ ネグサレセンチュウ	○は種前 D-D 15ℓ/10a (1.5ml/1穴) 土壌消毒（土壌消毒の頁参照）	作付10～15日 前まで-1	2 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。

えだまめ病虫害防除農薬一覧

農 薬 名	R A C コード	有 効 成分名	本剤の 使 用 回 数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適 用 病 害 虫 名											
					べと病	菌核病	灰色かび病	さび病	アブラムシ類	カメムシ類	ダイズサヤタマバエ	シロイチモジマダラメイガ	マメシンクイガ	フタスジヒメハムシ	ハスモンヨトウ	ハダニ類
トップジンM水和剤	1	チオファネートメチル	3	4※1		○										
アフェットフロアブル	7	ペンチオピラド	3	3		○	○	○								
アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン	3	3	○											
ランマンフロアブル	21	シアゾファミド	3	4※2	○											
ロブラール水和剤	2	イプロジオン	3	4※3		○	○									
Zボルドー	M1	塩基性硫酸銅	—	—	○※a											
ダイアジノン粒剤5	1B	ダイアジノン	4	6※4						○	○	○	○	○		
スミチオン乳剤	1B	M E P	4	4						○	○	○	○	○		
トレボン乳剤	3A	エトフェンプロックス	2	2						○	○	○	○	○	○	
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	3	4※5						○	○			○	○	
アクタラ顆粒水溶剤	4A	チアメトキサム	2	3※6						○	○					
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	2	3※7						○	○	○			○	
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	2	2												○
コロマイト乳剤	6	ミルベメクチン	2	2												○※b
ニッソラン水和剤	10A	ヘキシチアゾクス	2	2												○
マトリックフロアブル	18	クロマフェノジド	3	3												○
トルネードエースDF	22A	インドキサカルブ	2	2												○
プレバソンフロアブル5	28	クロラントラニリプロール	3	3									○		○	
ベネビアOD	28	シアントラニリプロール	3	4※8						○				○	○	
グレーシア乳剤	30	フルキサメタミド	2	2										○	○	○
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	2	2												○※c

※1 種子への処理は1回以内、は種後は3回以内 ※2 種子への処理は1回以内、散布は3回以内

※3 種子粉衣は1回以内、は種後は3回以内 ※4 種子粉衣は1回以内、粒剤は5回以内(生育期の処理は4回以内)

※5 は種時または定植時の土壌混和は合計1回以内、散布は3回以内

※6 は種前の塗沫処理は1回以内、は種後は2回以内

※7 は種時の土壌混和は1回以内、散布、空中散布、無人航空機散布は合計2回以内

※8 は種前の処理は1回以内、は種後の処理は3回以内

※a 野菜類(キャベツを除く)登録 ※b 豆類(未成熟)登録 ※c 豆類(未成熟、ただし、さやいんげんを除く)登録

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
べと病	○生育期 Zボルドー 500倍 アミスター20フロアブル 2,000倍 ランマンフロアブル 2,000倍	―― 前－3 3－3	アミスター20フロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。
菌核病	○生育期 トップジンM水和剤 2,000倍	7－3	
灰色かび病	○生育期 ロブラール水和剤 1,000倍	30－3	
さび病	○生育期 アフェットフロアブル 2,000倍	前－3	
アブラムシ類 〔・ジヤイモビゲナガ アブラムシ ・ダイズアブラムシ〕	○発生初期 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 スミチオン乳剤 2,000倍	7－3 21－4	
カメムシ類 〔・マルカメシ ・ホリカメシ ・イモシカメシ ・アサカメシ〕	○幼莢期～子実肥大期 スミチオン乳剤 1,000倍 トレボン乳剤 1,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 3,000倍 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍	21－4 14－2 7－2 7－2	ほ場周辺の雑草はきれいに刈り取る。
ダイズサヤ タマバエ	○開花期 スミチオン乳剤 1,000倍 トレボン乳剤 1,000倍 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 2,000倍	21－4 14－2 7－2	莢にかかるよう、ていねいに散布する。
シロイチモジ マダラメイガ	○幼莢期～子実肥大期 スミチオン乳剤 1,000倍 トレボン乳剤 1,000倍	21－4 14－2	莢にかかるよう、ていねいに散布する。
マメシクイガ	○幼莢期～子実肥大期 スミチオン乳剤 1,500倍 トレボン乳剤 1,000倍 プレバソンフロアブル5 4,000倍 ベネビアOD 4,000倍 グレースシア乳剤 3,000倍	21－4 14－2 3－3 前－3 前－2	莢にかかるよう、ていねいに散布する。
フタスジ ヒメハムシ	○幼莢期～子実肥大期 トレボン乳剤 1,000倍 ダイアジノン粒剤5 6kg/10a	14－2 30－4	莢にかかるよう、ていねいに散布する。
ハスモンヨトウ	○発生初期 トレボン乳剤 2,000倍 マトリックフロアブル 3,000倍 トルネードエースDF 2,000倍 アフーム乳剤 2,000倍 プレバソンフロアブル5 4,000倍 プレオフロアブル 2,000倍 ベネビアOD 4,000倍 グレースシア乳剤 3,000倍	14－2 前－3 7－2 3－2 3－3 前－2 前－3 前－2	早期発見に努め、若齢期に重点防除する。
ハダニ類 〔・ナミハダニ ・カンザワハダニ〕	○発生初期 コロマイト乳剤 1,500倍 ニッソラン水和剤 3,000倍	前－2 21－2	

さやいんげん病虫害防除農薬一覧

農 薬 名	R A C コード	有 効 成分名	本剤の 使用 回 数	当該成分を 含む農薬の 総使用回数	適 用 病 害 虫 名									
					さ び 病	菌 核 病	灰 色 か び 病	ア ブ ラ ム シ 類	コ ナ ジ ラ ミ 類	ハ ダ ニ 類	ア ズ キ ノ メイ ガ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ	イ ン ゲ ン テ ン ト ウ	ハ モ グ リ バ エ 類
カンタスドライフロアブル	7	ボスカリド	3	3		○	○							
アフエットフロアブル	7	ペンチオピラド	3	3	○※a	○※a	○※a							
アミスター20フロアブル	11	アゾキシストロビン	3	3		○	○							
セイビアーフロアブル20	12	フルジオキソニル	3	3		○	○							
カリグリーン	NC	炭酸水素カリウム	—	—	○※b		○※b							
エルサン乳剤	1B	P A P	1	1				○					○	
アグロスリン乳剤	3A	シペルメトリン	3	3				○					○	
アドマイヤー1粒剤	4A	イミダクロプリド	1	3※1				○						
モスピラン顆粒水溶剤	4A	アセタミプリド	3	3				○	○					
アクタラ顆粒水溶剤	4A	チアメトキサム	3	3				○						
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	4A	ジノテフラン	2	3※2				○	○					○
コロマイト乳剤	6	ミルベメクチン	2	2						○※c				
アフーム乳剤	6	エマメクチン安息香酸塩	2	2										○
コルト顆粒水和剤	9B	ピリフルキナゾン	3	3				○	○					
コテツフロアブル	13	クロルフェナピル	2	2						○	○			
カスケード乳剤	15	フルフェノクスロン	2	2								○		○※d
フェニックス顆粒水和剤	28	フルベンジアミド	2	2							○	○		
プレバソンフロアブル5	28	クロラントラニリブロール	3	3								○		○
プレオフロアブル	UN	ピリダリル	2	2								○		○

※1 定植時及びは種時の土壌混和は合計1回以内、散布は2回以内

※2 株元散布は1回以内、散布は2回以内

※a 豆類（未成熟、ただし、えだまめを除く）登録 ※b 野菜類（トマト、ミニトマトを除く）登録

※c 豆類（未成熟）登録 ※d マメハモグリバエ適用

病害虫名	防除時期及び防除法	使用時期-本剤の使用回数	注意事項
炭疽病	○は種前 資材消毒（資材消毒の頁参照）		
さび病	○生育期 アフェットフロアブル 2,000倍 カリグリーン 800倍	前-3 前-1	
菌核病	○生育期 アミスター20フロアブル 2,000倍 セイビアフロアブル20 1,500倍 カンタスドライフロアブル 1,500倍	前-3 前-3 前-3	アミスター20フロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。
灰色かび病	○生育期 アミスター20フロアブル 2,000倍 セイビアフロアブル20 1,500倍 カンタスドライフロアブル 1,500倍	前-3 前-3 前-3	アミスター20フロアブルは浸透性展着剤との混用を避ける。
アブラムシ類 (・ジャガイモゲナカアブラムシ ・マメアブラムシ ・ワタアブラムシ ・モモアブラムシ)	○は種時または定植時 アドマイヤー1粒剤 1g/株 植穴土壌混和 ○落花期～幼莢期 モスピラン顆粒水溶剤 4,000倍 アクタラ顆粒水溶剤 3,000倍	定植時又はは種時-1 前-3 前-3	アドマイヤー1粒剤は6kg/10aまで。
コナジラミ類	○発生初期 スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 アルバリン顆粒水溶剤 4,000倍 コルト顆粒水和剤 4,000倍	前-2 前-3	
ハダニ類 (・ナミハダニ ・カンザワハダニ)	○発生初期 コテツフロアブル 2,000倍 コロマイト乳剤 1,500倍	前-2 前-2	
アズキノメイガ	○発生初期 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 コテツフロアブル 2,000倍	前-2 前-2	
ハスモンヨトウ	○発生初期 プレオフロアブル 2,000倍 フェニックス顆粒水和剤 4,000倍 プレバソンフロアブル5 2,000倍	前-2 前-2 前-3	
インゲン テントウ	○発生初期 エルサン乳剤 1,000倍 アグロスリン乳剤 2,000倍	7-1 7-3	
ハモグリバエ類 (・トマトハモグリバエ ・マメハモグリバエ)	○発生初期 アフーム乳剤 2,000倍 カスケード乳剤 2,000倍 プレオフロアブル 1,000倍	前-2 前-2 前-2	カスケード乳剤はマメハモグリバエ適用。